

うえのたかもと
上野尚志

文化8年～明治17年(1811－1884)

教育者・郷土史家。上田藩士庄蔵と母小山氏の子として生まれる。通称昇吉郎、後に健蔵。号は浩流亭・集義堂。10歳の時、上田藩学校「明倫堂」の山田維則これのりの門弟となり、文学・武道を学ぶ。天保2年(1831)20歳の時江戸へ出て、昌平校に学ぶ。同5年(1834)帰藩し、明倫堂の句読師助となり、学監助となる。その後再び江戸へ出て、上田藩士としてはじめてオランダ語を学び、佐久間象山について兵法を学び兵学師範となり、上田藩の藩政の改革に参画した。嘉永3年(1850)塩尻組・国分寺組の代官とり、同6年(1853)上田藩主松平忠優ただますに「急務五条」を提出する。安政4年(1857)藩内の抗争から「藩政を誹謗し人心を惑わす」として隠居させられ、同6年(1859)には蟄居を命じられる。この頃に『小県郡年表』の原稿に着手した。慶応元年(1865)蟄居を解かれ、文武学校の寄宿舍鐘美館の世話係、領内社寺取り調べ等担当をした。明治4年(1871)上田庁の学校係となり、同6年(1873)に松平学校の首座教員、同8年(1875)県師範学校上田支校の教員となる。同17年(1884)10年の歳月を費やし『信濃國小県郡年表』を完成させた。